月報
岡崎の教育
平成18年12月1日
12月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
愛知教育大学名誉教授　仲井　豊氏
この人に聞く …… 2
写真家　井土英世志氏
羅針盤 …… 2
根石小学校長　永田　邦雄
ふれあい …… 3
北　中　波江野寛之
特　集 …… 4
調べる 書く 知る 統計グラフ
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー … 8
寮生活（昭和47年）
この本を …… 8

教育随想

岡崎市の地質地盤と防災教育

愛知教育大学名誉教授
仲井　豊氏

日本列島は地質学的には変動帯に位置しており、地震列島とも呼ばれています。私たちは変動帯の上で生活しているため地震災害から免れることはできません。いつ起きても不思議ではないと言われている東海地震・東南海地震・南海地震の危険区域内に岡崎市域も含まれています。

このような海洋型巨大地震のほか、内陸型地震（直下型地震とも言われている）の発生も懸念されています。

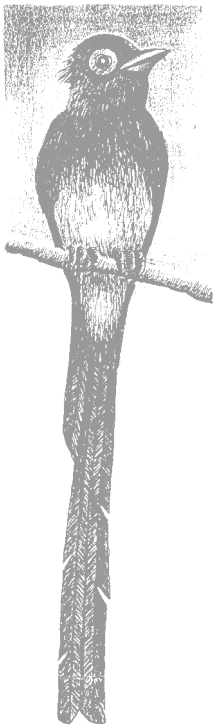
地震予知や緊急地震速報が万能ではない現在、私たち自身が防災対策を平時から考えておかなければなりません。

学校教育においても、防災訓練や避難訓練は行われています。しかし、地震についての基礎知識や今の校舎や学区で地震発生に伴ってどのような現象が生じ、どのように対処したらよいかなどについて考えておく必要があります。また、児童生徒の実態に応じた教育を日ごろから行い、子供たちが自主的に地震に備える意識を育てていくことが大切です。

岡崎市域は、花崗岩（かこうがん）や変成岩のしっかりした岩盤から成り立っているので、地震に対しても安心であるという考えが一部にあるようです。しかし、そうでないところも岡崎市内には広がっていることを知っておかなければなりません。岡崎市内の山地や丘陵地は、一般に安定した地盤であるといえます。だが、近年宅地造成などで開発されたところには盛り土や急傾斜地があり、地震の際に大きな災害を受ける可能性があります。また、市内の平野部で沖積層の広がる地域は決して安全ではありません。要は、地域の地盤の特性をよく理解するとともに、それに応じた対策が必要です。

また、学校だけでなく、家庭や地域と連携しながら防災教育を行っていくことも大切だと考えます。

（なかい　ゆたか）



▲写真集「がっこう」より

木造校舎のぬくもり

写真家
井土英世志　氏

「写真で大切なのは、写したいという心と、楽しくシャッターを切ること」と、笑顔で語る井土さんであるが、仕事を写真一本に絞るまでには二十五年近くかかっている。

グラフィックデザインの短大を卒業して、デザイン事務所に就職。カメラを購入して、写真撮影に夢中になった。「このまま写真を撮り続けていたい、プロの写真家になりたいと思うようになったのはこのころです。でも、写真では飯が食えないという父親の忠告から、和菓子屋でまんじゅう作りを始めたんです」と、若いころのことを懐かしげに話された。

その後、喫茶店、カレー屋、家具会社など、職を替える年月が過ぎた。「やらないで後悔するより、失敗をしてもやってみた方が後悔しないでしょう。失敗した経験は、決してむだにはならないはずだから。自分の本当にやりたいことは何だろう。ずっと、自分探しの日々だった」と、そのころのことを井土さんは語る。さまざまな職業を経験する中でも、好きな写真を撮る日々は続いていた。

昭和五十九年、学校の木造校舎が姿を消しつつあるのを知り、仕事の合間に写真を撮りに出かける。

「自分たちが学んだ木造校舎を、今撮っておかなくちゃ。ただ、そういう思いでしたね。」

使い込まれた机や黒光りする床や階段など、人のぬくもりを感じさせるモノクロの写真。これらからは、木造校舎での生活の懐かしさと、そこにいた、先生と子供たちとの思いまでが伝わってくる。その後、撮りためてあった写真を集めて、写真集『がっこう』を自費出版するに至る。

「美しいものは、撮らない。日常の何気ない風景がおもしろい」と語る井土さんであるが、『米山寮ものがたり』の写真からは、子供の笑い声や泣き声までもが聞こえてきそうな迫力が伝わり、単なるノスタルジーではないすごみも感じさせる。

「仕事で悩む時期もあったけれど、壁にぶつかりながら自分を探していく。遠回りしても、右なら右と、自分で決めていくことが大切ですね」と、今までの自分を振り返る。

現在は、「目ぐすり写真塾」で塾生に写真撮影の手ほどきをしたり、写真展を開く準備を進めたりしている。「自分の腕を試すために、できれば今年中にニューヨークで個展を開きたい」と、目を細めて夢を語った。

（氏　　名　いど　ひでよし
生年月日　昭和二十五年九月十一日
住　　所　上里一―十四―十八）

羅針盤

継　続

根石小学校長　**永田　邦雄**

根石小の朝の読み聞かせが始まって三十年近くになる。なぜ長く続いているのかと問われたときの答えは、

・学級づくりの一環であり、担任がそのよさを実感している。
・担任の好きな本を選び、本の世界を子供と共に楽しむことを第一にしている。
・子供が楽しみにしており、聞くときの目の輝きが継続のエネルギーになっている。
・読み聞かせのノウハウの蓄積があり、経験のない教師も比較的抵抗なく実践に入れる。

などであろうか。これらは、始めた当時の「一冊でもいいから心に残る本と出会わせたい」「一日に二十分間、子供と本に読み浸る時間を持ちたい」との願いに基づいた実践が継

夢を追いかけて

北　中　**波江野寛之**

早朝、校門でA男によく出会った。まだ眠いだろうが、平然としている。お互いあいさつを交わすと、彼は足早に体育館に直行する。

忘れもしない部活動見学初日の五月十五日、初めてA男に出会った。迫力ある彼の目つきに惹(ひ)かれ、「一緒にバスケやらんか。全国に行かんか」と声をかけた。初心者の彼にとってはわけのわからない言葉であったに違いない。無茶な頼みにもかかわらず、一週間後、彼は体育館のバスケットボールコートに立っていた。

その日から一緒にバスケットに没頭した。朝早くから帰り遅くまで、コートに最後まで立っていたのはいつも彼だった。夏休みも冬休みも毎日彼のボールをつく音が、体育館から響いていた。

振り返ってみると、A男にはバスケットの指導よりも生活面の指導をすることが多かった。「時間を守れ、提出物をきちんと出せ、あいさつをしろ」。最後には、「どうしてお前は、そういういい加減な性格を直さない。そのいい加減な性格と生活がバスケットに出とるわ」という具合である。一つのことが守れない度にどこであろうと叱咤(しった)した。

そしてとうとう、大会当日に遅刻をする失態を演じてしまった。その日は大会に連れて行かずに学校に残していった。

彼はみんなが帰ってくるまで一人体育館で練習していた。大会から帰ってくると「すみませんでした。二度と遅刻しません。次、遅刻したらバスケ部をやめます。許してください」と、みんなの前で初めて頭を下げた。彼の最後の決断であった。

少しずつ変わっていくA男の姿が本当にうれしかった。そして、彼のプレーも自然と変わった。自己中心的なプレーから、周りの仲間をうまく使うようになった。

七月三十一日、最後の夏。愛知県バスケットボール選手権。最大のライバル、県新人戦の王者、明豊中学校との戦い。攻守共に一瞬も気が抜けない試合展開であった。残り十秒で「五十五対六十」。熱く激しい戦いの幕が降りようとしていた。

A男と追いかけ続けた全国への夢。その夢は県大会ではかなく消えた。A男の目からは大粒の涙が流れ、その場で崩れ落ちた。人事は尽くしたのに、天命は過酷だった。泣きじゃくるA男を慰める言葉がなかった。夢に後一歩で手が届きそうだっただけに、ショックもまた大きかった。しかし、本気になって取り組んだことは、必ずその体に染み付き、今後の人生の糧となってくれるだろう。

A男が汗を流した体育館では、今日も一・二年生が必死にボールを追いかけ練習している。A男と一緒に夢を追いかけて、必死にやってきた二十七か月。そのほとんどが苦しいこと、つらいことの連続であったが、楽しかった。そんな出会いを大切にしつつ、また全国を目指し歩み続けたいと思う。

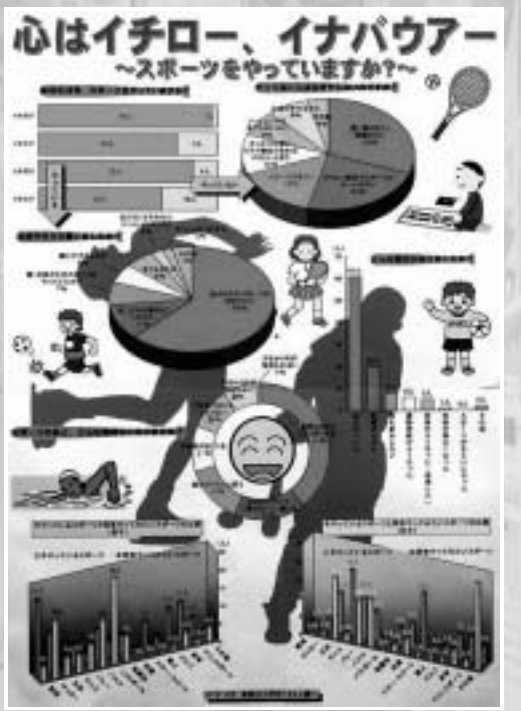
続される中で認識されてきた。

学校には本校の読書のように、長年続いていて伝統になっている活動や行事がある。それが始まったきっかけはさまざまであろうが、何年も続いているのにはそれなりの理由があるはずだ。それらは次のようなものではないか。

・教師がその意義を理解し、必要性を感じている。
・子供が生き生きと取り組む姿が見られ、成長を実感することができる。
・無理なく実施することができる。

「校内合唱コンクール」が、多くの中学校で永きにわたって実施されているのは、こうした意義・価値があるからであろう。

本校には読書の他に続いている活動がある。運動会六年生の演技「根石ソーラン」や冬に行う「めざせ！なわとび根石記録」などである。これらはまだ十年ほどであるが続いている。今年で三年目となる「朝の歌声」と「音楽集会」はどこまで続くか。いずれにしても、これらの活動には「子供にとってどうか」の視点を忘れてはならない。



▶第54回全国コンクール パソコンの部　特選（総務大臣特別賞）

▶第53回全国コンクール 中学校の部　特選（総務大臣特別賞）

調べる 書く 知る 統計グラフ

十月十八日は、統計の重要性に対する関心と理解を深め、統計調査に対し、一層協力してもらうため「統計の日」とされている。

岡崎市統計グラフコンクールは、昭和五十一年にその前身である統計図表コンクールが始まってから、今年で三十一回目となる。愛知県は五十回目、全国では五十四回目の開催となり、統計グラフコンクールの歴史は古い。

岡崎市では、統計グラフの説明会を保護者同伴で行ったり、統計グラフ指導者講習会を開催したりする取組から、作品の質も格段に向上するようになった。その結果、県コンクールの上位入賞作品は岡崎の児童生徒がほぼ独占している。また、毎年十月中旬に審査が行われている全国コンクールにも、岡崎から多くの作品が出品され、昭和六十三年に初めて入賞して以来、例年多くの作品が入賞するようになってきた。さらに昨年度と今年度の二年連続で、全国でもっとも優秀な作品に贈られる「総務大臣特別賞」を岡崎の作品が受賞した。このことからも岡崎の統計グラフのレベルの高さがうかがえる。

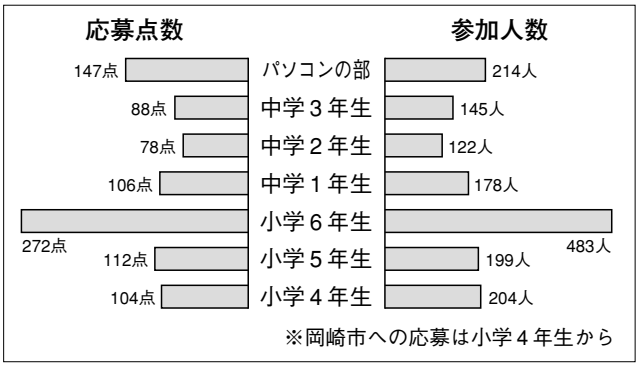
多くの情報が溢（あふ）れている今日、必要な情報を収集・整理し表現する能力の育成が求められている。今後も、統計グラフを通して、児童生徒にこれらの能力を伸ばしていくことが望まれる。

▲ 統計グラフ説明会（矢作東小）

▲ 岡崎市統計グラフコンクール展覧会（岡崎市役所ロビー）

▲ 作成風景（六ツ美南部小）

▲ 作成風景（六ツ美北中）



▲ 平成18年度岡崎市への応募点数と参加者数

愛知県統計グラフコンクール　岡崎の金賞入賞者数

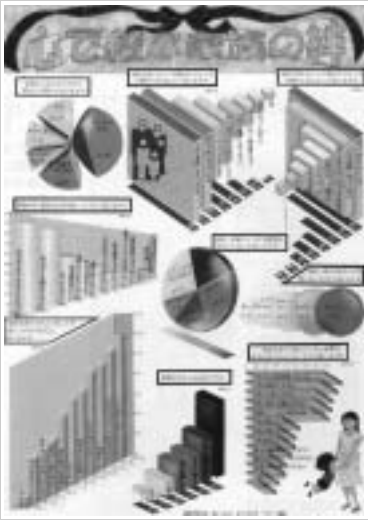
	小学 1・2年	小学 3・4年	小学 5・6年	中学	パソコン	合計 全25点
H 11	4点	5点	5点	5点	3点	22点
H 12	4点	4点	5点	5点	4点	22点
H 13	2点	5点	4点	4点	2点	17点
H 14	2点	5点	5点	5点	3点	20点
H 15	3点	5点	5点	4点	5点	22点
H 16	4点	5点	5点	5点	5点	24点
H 17	4点	4点	5点	5点	5点	23点
H 18	2点	5点	5点	5点	5点	22点

（金賞は各部に５点）

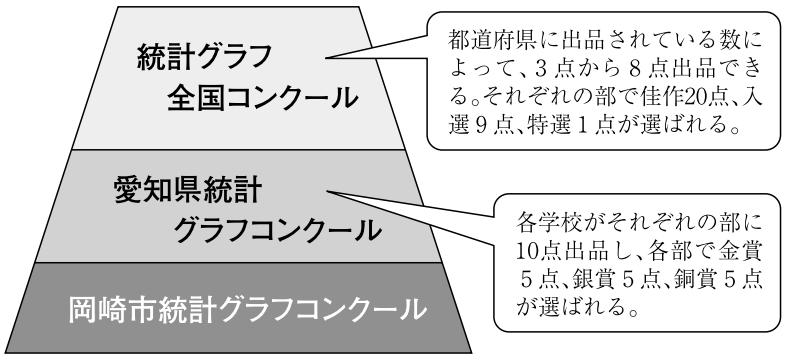
統計グラフ全国コンクール入選作品

▶第52回全国コンクール　小学５・６年生の部　入選

▶第51回全国コンクール　中学校の部　特選



▲第50回全国コンクール　小学３・４年生の部　入選



▲ 平成18年岡崎市統計グラフコンクール表彰式

お知らせ

● 教育最新情報

○本市の不登校対策

八月中旬に発表された文部科学省の学校基本調査によると、「不登校」を理由とする児童生徒数は、全国で十二万二千人（一・一三％）です。八年間ほぼ横ばい状態であり、今日の学校教育において最重要課題となっています。

このことは、本市においても同様です。しかし、スクールカウンセラーが全中学校十九校に設置されたこと、大学生による教育相談サポーター活動が、一学期から十校で開始できたことなど、サポート体制が充実してきています。

―情報連携・行動連携から―

いじめ・不登校対策委員会が中心になって、キャッチフレーズ「一人を救う！新たな一人を出さない」を掲げて、今年度は特に情報連携・行動連携を強化し、チームで取り組めるように配慮しています。

①小中の情報連携

未然防止を目的として、中学校区単位で九月に情報交換会を開催しました。特に、小学校で保健室登校していたり、欠席が十五日以上三十日未満の「準不登校」であったりする児童について、継続的な支援を推進しています。また、一学期の対策事例について、キーワードをピックアップして冊子「学校へ行きたい」にまとめました。

②医師会との行動連携

不登校相談室事業について、医師会と教育委員会との連携で全小中学生にチラシを配付しました。相談予約が増加し、九月末時点で、一九二人の相談者がありました。保護者が子供の悩みを相談できるようになっただけでも、大きな進歩です。

③スクールカウンセラー（SC）とメンタルサポーター（MS）との連携　―ケース会議―

A中学校では、校長、対策委員、担任、保護者、SC、MC、市教委が集まって、ケース会議を開きました。引きこもり生徒へのMS派遣（人とのかかわりの苦手な児童生徒の家庭を訪問し、側面的に援助する）を決めました。

また、十一月二十六日には、野外活動委員と不登校対策委員との連携で「チャレンジデイキャンプ　イン須淵」を開催しました。

このように、さまざまな角度から連携を図っています。

▲ 小中の情報連携

● 少年の自然の家だより

○ウッデバラ市からのお客様

岡崎市の姉妹親善都市ウッデバラ市から中学生を含む八名とホームステイ先の家族が、十月六日（金）、本所を訪問した。落ち葉スキーなどが予定されていたが、あいにくの雨で中止となった。夕食は、太陽の広場で「バーベキューパーティー」を実施し、秋の一夜を楽しんだ。

▲ 自然の家での海外交流

○すぶちネイチャークラブ

十月七日（土）、本年度五回目のネイチャークラブを開催した。午前中、雲ひとつない快晴の下、「河合の里スタンプラリー」を行った。

ウォークラリー形式で行う「スタンプラリー」に子供たちは戸惑いながら、山の中に入り一生懸命ポイントを探した。自分たちの位置や方向が合わず、何度もやり直しをしながら最後まであきらめずに次なるポイントに向かった。

コースの途中では幻の滝と言われている「天恵の滝」を見ることができた。落差十五メートル以上の滝で、子供たちは、自然の素晴らしさ、壮大さを実感することができ、「すごい」「きれい」と感動の声が上がった。

午後からは創作棟で、竹を使ったクラフト「ドリームキャッチャー」を作成した。午前中の疲れも見せず、どの子も工夫しながら個性あふれる作品を完成させ、お土産として持ち帰った。参加した子供たちは、秋晴れの下、秋の自然を思いっきり満喫した。

○少年自然の家も冬支度

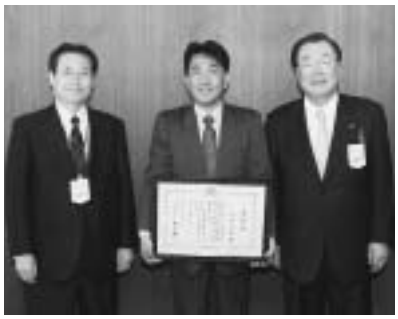
本年度の利用も一月の福岡小、甲山中を残すのみとなり、少年自然の家も冬支度に入った。五月から利用されたテントの撤収・掃除が行われた。

少年自然の家も、来年度の春の利用まで冬ごもりとなる。

●表　彰

◆第三十七回博報賞
教育活性化部門
「長年にわたる全校音楽活動の展開による特色ある学校づくり」
千万町小学校
「地域の人々との交流や、地域の自然を守る多様なボランティア活動」
常磐中学校

◆平成十八年度国税庁長官表彰
六ツ美南部小　教諭　山本信幸


▲左から市長・山本教諭・教育長

◆外務省主催　第三回開発教育国際理解教育コンクール
美川中　教諭　加藤有悟

◆第三回津軽三味線全国大会
文部科学大臣賞（全国一位）
根石小六年　加藤　佑典

◆全国小・中学校作文コンクール
優秀賞　大門小三年　宇佐美朱華
北中一年　須見　春奈
竜海中三年　都築　緑紗

◆CBCこども音楽コンクール中部決勝大会
●最優秀賞　※全国大会（テープ審査）出場
管楽合奏部門　竜美丘小　吹　奏　楽
合奏第一部門　城北中　弦　楽　合　奏
●優秀賞
重奏部門　城北中　弦楽八重奏
同　中　弦楽十重奏
岩津中（サキソフォン四重奏）
同　中　金管十重奏
管楽合奏　岩津中　吹　奏　楽
合奏第二部　竜南中　管弦楽合奏
合唱部門　南　中　女声三部合唱
六ツ美北中　女声三部合唱

◆高円宮杯第五十八回全日本中学校英語弁論大会愛知県予選
最優秀賞　額田中三年　角谷　沙織
※県代表で全国大会出場

◆FBC秋花壇付帯事業「花壇を描いた」絵
県知事賞　形埜小六年　鈴木　大志

◆ソフトバレーボール小学生県大会
第二位　竜美丘小学校

◆「子とともに　ゆう&ゆう」第四回作文コンクール
最優秀賞　常磐中二年　柴原　彩希
優秀賞　常磐中三年　中根　麻貴

◆JOC第二十一回全国都道府県対抗中学バレーボール大会愛知県代表選手最終選考大会
優秀選手賞（全国大会県代表）
矢作北中三年男子　三浦　翔護
同　林　貴裕
同　石川　和樹

◆第五十回愛知県統計グラフコンクール
㊤総務大臣特別賞（全国一位）
㊥全国入選　㊨全国佳作
●小学校一年・二年生の部　金賞
㊥堀　寛和（矢作南小）
㊨都築美香子（小豆坂小）
●小学校三年・四年生の部　金賞
㊨江本　望（矢作東小）
㊨伊藤　綾美（矢作東小）
石原　恵子（竜美丘小）
横山　舜（竜美丘小）
加藤　希望（矢作西小）
●小学校五年・六年生の部　金賞
㊨安藤　碧葉（竜美丘小）
㊨永田　視鈴（竜美丘小）
㊨田村　館奈（六ツ美西部小）
堀　千紗（矢作南小）
㊨市川　涼葉（六ツ美南部小）
●中学生の部　金賞
㊨今岡　美晴（葵　中）
㊨鈴井美菜子（竜　海　中）
坪田・水野（城　北　中）
畔柳　諒輔（竜　南　中）
稲垣　香奈（竜　海　中）
●小中学生パソコンの部　金賞
㊤小嶋　秀弥（竜美丘小）
坂田　賢治（甲　山　中）
㊨近藤・清水（北　中）
㊨鯵坂・中根（井　田　小）
甲斐　千晶（矢　作　中）
※前記以外に、銀賞二十二点、銅賞二十三点、県受賞している。

◆第三十三回市小中学生作文コンクール
最優秀賞　六名小五年　近藤　辰哉
葵中三年　清水　翔子

◆第二十回県中学生英語弁論大会
優秀賞　新香出中三年　藤野晃一郎

◆第五回愛知中学生ロボットコンテスト
●「あの壁を越えろ」部門
準優勝　岩津中三年　安田・井澤
●「より高く、より多く」部門
準優勝　南中三年　矢野　巧人

◆第三回徳川家康公作文コンクール
最優秀賞　上地小四年　原田　文花
優秀賞　矢作南小一年　渡部　飛水
梅園小五年　澤田　智
岩津中二年　田邉　蛍

◆第五十六回西三河中学校駅伝競走大会
●男子　優勝　東海中学校
三位　六ツ美中学校
●女子　二位　南中学校
三位　六ツ美中学校

第45回岡崎市小学校陸上競技大会

個人種目1位のみ　　会場：県営岡崎総合運動場

男子	氏名	校名	記録	女子	氏名	校名	記録
5年100m	岩田　侑也	矢作東	14"5	5年100m	杉山　美貴	矢作東	14"5
6年100m	近藤　練	男川	13"2	6年100m	石川　尚美	矢作南	14"3
80mH	五島　大暉	福岡	12"6	80mH	坂田　実佳	連尺	13"2
1000m	西山　令	井田	3'04"2	1000m	髙山　千絵	細川	3'24"2
400mR	本庶・近藤 / 神谷・近藤	男川	54"5	400mR	小林・岡本 / 伊賀本・石川	矢作南	56"7
	1位	2位	3位		1位	2位	3位
	男川	福岡	六ツ美西部		矢作南	大樹寺	広幡
走り幅跳び	安藤　諒太	竜美丘	4m91	走り幅跳び	伊賀本里穂	矢作南	4m22
走り高跳び	照井　優作	井田	1m40	走り高跳び	鈴木麻莉華	城南	1m30
ソフトボール投げ	柴田　洋輝	細川	69m95	ソフトボール投げ	加藤　真彩	緑丘	53m84
総合	1位	2位	3位	総合	1位	2位	3位
	福岡	井田	男川		矢作南	広幡	緑丘

フォトヒストリー 岡崎の教育

寮　生　活
（昭和47年）

写真提供：額田中学校

昭和四十七年に、旧額田町の四つの中学校を一つに統合して、額田中学校が誕生した。それに伴い、遠距離の生徒のために「敬信寮」が開設された。

現在は、全校生徒の約四割にあたる一〇四名が寮生活を送っている。ピークの平成三年には、二三〇名が寮生活を共にしていた。

写真は、寮生同士で散髪する様子である。当時は、寮内に理容室があり、散髪を通しても、兄弟のような絆が築かれていた。平成十年の大規模改修で理容室はなくなり、現在このような光景は見られないが、寝食を共にする寮生の確かな絆は受け継がれている。

・カット　生平小　小林彰一

オアシス

大掃除をして、教室をきれいにしようとするこの月。日本では、掃除も学習の一環として、子供たちで清掃活動を行っているが、外国では、学校を自分たちで掃除をする習慣があまりない。この美徳を、学校の中だけでなく、家でも実践できる子供に育ってほしい。

進路志望先を決定する時が迫る。冷え込みの増す廊下で顔を突き合わせ、震えながら相談を繰り返す。のんびり顔の者に叱咤し、不安げな顔に激励を与える。子供の前ではどんと構えて、温かく、そして強く背中を押し続ける師走。「冬来たりなば春遠からじ」と。

愛知県統計グラフコンクールでの金賞受賞者は岡崎市が群を抜いている。さらに、統計グラフ全国コンクールでも、二年連続で「総務大臣特別賞」を受賞し、岡崎市のレベルの高さがうかがえた。今後も、情報社会を生き抜く力を統計グラフの制作を通して身につけてほしい。

スタートから二か月。「美しい国、日本」の実現などを表明した安倍内閣に期待が高まる。その実現のためには次代を背負って立つ子供の育成が不可欠である。教育再生が叫ばれる今、家族、地域、国を愛し、命を大切にする人間を育成するために、私たちも力を尽くしたい。

この本を

＊ナルちゃん憲法　松崎　敏彌
日本文芸社　￥1260

＊虫を愛し，虫に愛された人　W・ハミルトン
文一総合出版　￥1260

＊坂東先生の教育講座　坂東　義教
テレビ朝日　￥890

＊邂逅の森　熊谷　達也
文芸春秋　￥2100

＊続・釣り船船長のひとりごと　石井　泉
自由国民社　￥1360

どんな職業でも，その仕事に誇りをもてることほど幸せな人生はない。本書の船長はマダイ釣りにかけては頑固一徹，せっせとマダイのポイント作りに精を出す。だからおかしな釣り方をすれば，客であろうと容赦はしない。罵声を飛ばす。それは，客に大鯛を釣ってもらいたい一念からである。これからの教育も，子供たちにこのモチベーションの高さ，責任感を身につけさせていく必要があろう。